tyloses having an appearance of septa (in C & D) and abietineous pittings (in C). E & F: Radial sections, showing uniseriate bordered pits arranged contiguously and one or two large pits in a cross field. Abietineous pittings are seen having an appearance of nodules on horizontal walls of ray cells in F. A, ×35, B, C & F, ×175. D & E, ×88.

* * * *

北海道の上部白亜系上部えぞ層群から得た材化石の3新種を記載した。*Araucarioxylon nihongii* は木部柔組織が極めて多く，しかも丈の低い細胞からできているという，他に例を見ない特徴をもった珍種である。大夕張の大巻沢の転石中より採集。種小名は札幌市の二本木光利氏に献名した。かつて西田（1973）は基本的にはスギ科に属する構造を示し，かつ仮導管にしばしば第3次らせん肥厚をもつ材を新属 *Oguraxylon yubariense* として大夕張のダムサイトから報告した。今回，大夕張の奥，三夕トンネルの南出口付近の小沢で得た転石から同属の新種 *Oguraxylon pseudoyubariense* を記載した。両者は図2C，Dで図示したように，直交分野の半有縁孔の配列によって区別できる。*Protocedroxylon yezoense* はナンヨウスギ型と一般的球果類型の有縁孔をもった仮導管とモミ型膜孔をもった放射組織とを併せもった Protopinaceae に属する材で，中生代に特有のものである。本種は仮導管にはチローシスを生ずるが，多くはなく，木部柔組織があり，放射組織の高さは1～28，主に3～15細胞高，直交分野に1～2個の比較的大きい半有縁孔があるのが特徴である。小平町達布一二三沢の転石中より採集した。これらの転石は上部えぞ層群（Turonian）から由来したものと思われる。

□久保田秀夫 他：**鬼怒沼湿原の植物** 141 pp. 植生図1，付表付図多数. 1983. 栃木県林務観光部環境観光課. 非売品. 鬼怒沼は栃木県北西部の群馬県境近く海抜 2,000 m の所に広がる高層湿原で，日光国立公園の特別保護地区に指定されている。尾瀬原湿原よりも交通不便だということもあって訪れる人が割合少なく，オオシラビソの林に囲まれて明るく開けた湿原の景色もよく保存されていたが，近年登山者が増すにつれて環境破壊が目立つようになったといわれる。また最近は，環境保護団体などが反対し続けていた奥鬼怒スーパー林道という県境を越える道が工事にかかるとかで，たとえ観光用車両は入れないという条件づきであるにしても俗化は目に見えているといえよう。久保田氏ら5人の昭和55年以来の詳しい植生調査の結果がまとめられて発表されたことは，まことに意義あることということができる。（伊藤　洋）